
私 = 甘い

こをり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私に甘い

【Nコード】

N7418N

【作者名】

こをり

【あらすじ】

大好きなお菓子を取り上げる執事なんて要らない！

だ・か・ら

おいしく食べてあげよう

(前書き)

カニバリズム、最低な言葉、流血描写を含んでいます
苦手な方はバックプリーズ

「やだあ！チョコレートが食べたいのお！！」
「ですがお嬢様・・・このままでは病にかかってしまいます」
「うるさあい！チョコか飴ちゃんかガムが欲しい！！」

もう！執事のくせにどうして私の言う事が聞けないの！？
とーによーびよーとか訳のわかんない奴なんか関係ないんだから！
私は甘い甘いお菓子が食べたいだけなのに

「お嬢様、あまり私を困らせないでください」
「困ってるのは私なの！！」
「お父様からお叱りをつけるのは私なのです」
「それが何？関係ないもん！」

ため息なんてついたって本当に関係ないんだから仕方ないでしょ？
お父様なんて知らないわ

「もういい出てっ！」
「・・・あとで医者を呼んでおきます」
「あんなロリコン、絶対嫌！」

甘いものは大好き。苦いものや辛いものなんて食べ物じゃないよ！
ベットの枕下から執事にばれないように隠していたフルーツナイフ
仕方ない、よね

「ん、うあ・・・いったあ」

私の可愛い可愛い小指の付け根にゆつくりとナイフを下ろす
痛い、けどこれが今食べれる最高級のお菓子
もう右手には3つしかお菓子が無いから今度は左手

「ああ・・・さいっごう！」

ちゅうと強く吸うと赤くて甘い蜜がたらたらと流れた
皮膚はちよつと噛みにくいけど何度も口内で遊べば味が出る
3つしか指が無い右手には包帯がグルグル巻きだからもう食べれな
いけど・・・

まだまだたくさんお菓子は残ってるんだから！

「ん、あう・・・んぐ」

「お嬢様！！また・・・なんて事を！」

最悪！一番好きな骨をしゃぶろうと思ったのにお菓子を奪われてし
まった

このクソ執事が！！うざい事してんじゃねーよ！！

「あんたいい加減にしなさいよ！ただの犬風情に私のお菓子を取り
上げる権利なんて無いわ！」

「ですから私はアナタ様のお父様に・・・」

「クソ親父が何？いいからお菓子を返して！」

「コレはお菓子ではないのです！目を覚ましてください！」

ナイフをクソ犬に向け怒鳴り散らすが一向に返す気配は無い
あーマジでイライラする！手に力をこめれば左の小指があった場所
から蜜が出る

もったいない、もったいない、もったいない！！

早くしないと固まっちゃう！！

「おじょうさ、ま・・・」

「クソが人間の言葉喋ってんじゃネーよ、とっとと返せつつってんだろ」

「・・・うつ」

我慢できずクソの右目にナイフをプチュリ

引っこ抜くとクソにお似合いの叫び声をあげながら悶えだしたやだっ！ 飴ちゃんみたいで可愛いじゃない！

「ん〜味はあんまりね？きっと私のほうがおいしいわ！」

「うあああああああ！！」

「うつさいこの私がアンタの目玉をおいしいって褒めてんのよ？喜ばなさい」

小指はもういいやあの味ちよっと飽きてきたし

でもいいの！だって大きくて甘い、でもちよっとうるさいお菓子が手に入ったし

「まずは逃げられないように縄を持ってこなくっちゃ！それから猿轡！」

「い、や・・・だ！たすけ、て助けてえ！！」

「ガタガタうるさいなあ」

「ヒッ！・・・あ、あああ！！」

「あら！この歳でお漏らしなんて最低ね」

確か地下室に空き部屋があったわよね？

クソの髪の毛を持ち引きずりながら歩く姿は悪魔のように

「さあてと！お砂糖をつけなくちゃ！」

彼女の真白いワンピースは血肉と尿でびちゃびちゃに

けれど嬉しそうに微笑む彼女を誰が拒めようか？

(後書き)

わがままお嬢様は基本嫌いです

でも書きちゃった私に石を投げないでください(イタタ)

人喰いネタは好物です！でも見たくないです(アタリマエ)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7418n/>

私 = 甘い

2010年10月11日01時59分発行